

# 本でつながる世界



8月25日に中央図書館で行った、第16回図書館読書交流会では、昨年度の「清瀬教育の日 ビブリオバトル」に参加した中学生とその友人に本について、語ってもらいました。

ビブリオバトルは発表形式は様々ですが、本を紹介する発表者が面白いと思った本を順番に5分間で紹介し、それぞれの発表を聞いた後、1番読みたくなった本を参加者が投票し、「チャンプ本」を決めるもので、知的書評合戦とも呼ばれています。



図書館読書交流会では、中学生たちがビブリオバトルに参加した時の感想や、読書を好きになったきっかけ。読んで感動した本、また、本をあまり読まない人にオススメしたい本等の話をしてくれました。

今回の中学生たちの間では、文豪がキャラクター化され、それぞれの文豪にちなんだ作品の名を冠した異能力を用いて戦う、アクション漫画『**文豪スレイドックス**』をノベル化した本が人気があるそうです。



今年も10月19日(土)に都立清瀬高校で「清瀬教育の日 ビブリオバトル」が開催されます。ビブリオバトルがどの様に行われているのか、どんな本が選ばれているのか、興味のある方は参加してみてもいかがでしょうか。そこで紹介された本が気になったら、ぜひ**図書館**に読みに来てください。

# Teens Joy

10代のみなさんへのおすすめ図書リスト



No.38 2019.10

清瀬市立図書館

## 小説 天気の子

新海 誠／著  
株式会社KADOKAWA



アニメーション映画「天気の子」の新海誠監督が執筆した原作小説。家出をした少年・帆高は雨が降り続く東京で、祈るだけで天気を晴れに変える力を持った少女・陽菜と出会う。帆高は陽菜に課せられた運命を知り、ある大きな犠牲を払う決断をする。その結末は、人生の選択を迫られた時に“自分だけが望む未来”を優先すること、それがどういふことなのかを考えさせられます。映画にはない登場人物の視点もあり、映画を見た方も新たな発見があるはず。また、映画の主題歌を歌うRADWIMPSの野田洋次郎さんが解説文を書いています。

< 駅前図書館 北田 >

誰かを好きになるという経験は、とても大切なものです。たとえその想いがかなわなくても、破れてしまっても。でも、その想いが、秘密にしておかなければならないものだとしたら…？ 相手に対して、まわりの人たちに対して、そして自分自身に対しても悩む中学校3年生の「ハル」。そんな彼女が中学校を卒業するまでの1年間を描いた作品です。

読み終えたあとは、ニュースでとりあげられる「LGBT」という言葉が、これまでとは違った響きであなたに聞こえてくるかもしれません。

< 野塩図書館 伊藤 >

## お絵かき禁止の国

長谷川 まりる／著  
講談社



## もののはじまり おもしろ雑学

本郷 陽二／著  
三笠書房



## ヘンな名前の植物 ヘクソカズラは本当にくさいのか

藤井 義晴／著  
化学同人



きたない名前が二つも入った、ちょっと気の毒な植物、「ヘクソカズラ」。けれどもそのにおいては、自分を攻撃するほかの植物や昆虫を遠ざけ、身を守るために植物が編みだした、生存戦略でもあるのです。「バカナス」「ジゴクノカモノフタ」「ブタノマンジュウ」「キソウテンガイ」…。思わずびっくりさせられる名前ばかりですが、そのインパクトに負けないほど、それぞれが独自の生態や機能を持ちあわせています。置かれた環境の中で、自分の特性を活かしてたくましく生きる、ヘンな名前の植物たち。見られた植物の世界の奥深さ、おもしろさに気づかされる一冊です。

< 駅前図書館 草野 >

スマホやパソコンによりいろいろな情報があふれている現代社会でも、「もののはじまり」については意外と知らないことが多いのではないのでしょうか。

この本は世界中の「もののはじまり」の物語を集めた本です。お寿司屋さんで「あがり」と呼ばれているお茶は、なぜそう言うようになったのか。火をおこす道具の「マッチ」は実は発明された当初は猛毒があり、使用後は手洗いをする必要があった。などなど、今では考えられないような面白い「もののはじまり」が沢山書かれています。ひとつひとつが1ページに収められ読みやすくなっていますので、自身の雑学の知識を増やしてみませんか。

< 中央図書館 根岸 >